

Title	白山ぼたん鍋プロジェクト：中山間地の振興を目指して - ぼたん鍋でつながる地域の環 -
Author(s)	
Citation	JAIST社会イノベーション・シリーズ2, 28
Issue Date	2009-06
Type	Others
Text version	publisher
URL	http://hdl.handle.net/10119/8219
Rights	
Description	

今後の展望

白山麓・吉野谷地区の各集落は、たとえば吉野地区は平地の田が多い、瀬波・木滑地区は90%以上が耕作放棄地化している、中宮地区はスキー場のゲレンデが利用できるなど、それぞれの集落の特色（課題）があります。そこで中山間地域振興グループでは、事業の実践に向けて、下記のように重点地域を指定し、それぞれの地域に応じた取り組みを行うことを提案しています。

■ 重点地域の指定（案）

- 吉野・瀬波・木滑：「グリーンツーリズム促進地域（市民農園・谷川利用）」
- 瀬波・木滑：「耕作放棄地 解消重点地域（転作作物・焼畑）」
- 中宮：「スキー場・ゲレンデ利用地域（観光牧場）」
- 瀬波・木滑・中宮：「鳥獣害対策地域（猪捕獲）」

また同グループでは吉野谷地区における5年以内の到達目標として、下記のような数値目標を掲げています。これから実践に向けて、地元主体で新たなスタートを切ります。なお本プロジェクトはオープンな活動です。思いのある方は「ぼたん鍋」の輪に加わりませんか。



地域再生人材創出拠点の形成プログラムとは

石川伝統工芸イノベーション養成ユニット事業は文部科学省・科学技術振興調整費の地域再生人材創出拠点の形成プログラムにより運営されています。同プログラムは大学の個性・特色を活かし、地域産業の活性化や地域社会のニーズの解決に向け、地元で活躍し、地域の活性化に貢献し得る人材を育成することを目的として、平成18年度に創設されました。大学が地元の自治体と連携し、科学技術を活用して地域に貢献する人材を育成する「地域の知の拠点」を形成するシステムを構築することを支援する仕組みです。

JAIST 社会イノベーション・シリーズ 2

発行 2009年6月

発行所 国立大学法人 北陸先端科学技術大学院大学・地域・イノベーション研究センター
〒923-1292 石川県能美市旭台1-1 知識科学研究科棟Ⅱ7階

■本誌に関するご意見、お問い合わせ

TEL: 0761-51-1839 FAX: 0761-51-1767 E-mail: dento-secr@jaist.ac.jp



本誌は、文部科学省科学技術振興調整費
地域再生人材創出拠点の形成プログラム
の助成を得て発行しております。

白山ぼたん鍋プロジェクト

中山間地の振興を目指して
— ぼたん鍋でつながる地域の環 —



平成20年度、JAISTが開講する「地域再生システム論」講座で、中山間地域振興グループが結成されました。同グループには、地元住民や行政職員をはじめ、県内外のさまざまな立場のメンバーが参加。白山麓、特に吉野谷地域で実地調査を行って問題点を抽出し、「白山市（白山麓）地域再生計画案骨子」を練り上げました。この計画案、実は「白山麓ぼたん鍋プロジェクト」と呼ばれています。なぜだと思いませんか？ その理由は、本誌を読めば分かります！

白山麓・吉野谷が抱える課題

白山市は平成17年2月に1市2町5村が合併してできた自治体です。合併によって周辺地域での雇用、交流、協力がしやすくなりましたが、公共施設の統合などにより空き施設が増えた、意思決定が難しいという課題も見えてきました。こうした現状を背景に、これからは行政主体ではなく民間主体での地域支援の取り組みが必要となっています。

白山市の白山麓地域は、良質の湧水や温泉が多く、冬季の積雪を活かしたスキー場も点在しています。金沢・小松から車で40分圏内にあり、白山スーパー林道によって白川郷と結ばれています。さらに東海北陸自動車道開通に伴って、岐阜からの入込客の増加が見込まれています。山が険しいという問題もありますが、車さえあれば観光地としてアクセスは良好だといえます。

どの地域でも深刻化している過疎高齢化は白山麓地域でも進んでいます。地域全体では64集落のうち10集落が限界集落となっています。このまま過疎高齢化を放置しておくと、限界集落化がさらに深刻化し、集落の自治、生活道路の管理、冠婚葬祭など、共同体としての機能が衰え、地域が機能しなくなります。10集落から成る白山麓の吉野谷地区では、1集落(瀬波)が限界集落で、空き家も10数件あります。同地区の観光客も年々減少しています。スキー場を例に見て

みると、その変化は急激で、白山市営スキー場入込客数は平成2年度をピークに年々減少し、現在はピーク時の約3分の1となっており、中宮温泉、鳥越高原大日の各スキー場は休止状態にあります。

スキー客の減少に危機感を持った観光協会や商工会は、協力して年間20数回、観光イベントを企画していますが、参加者は多く手ごたえは得ているものの、中心になって活動できる人材に限られており、日程調整や準備など手間がかかってイベント疲れに陥っているのが現状です。

減反政策や過疎高齢化に伴って耕作放棄地も増加しています。吉野谷地区の耕作放棄地は、住民の努力により18haで抑えられていますが、高齢化する住民がどこまでがんばるかは分からない状況です。「畑を守らなければ観光に使用したい時に使えなくなってしまう、景観が悪化する」と、草刈だけ行ったり、ウド栽培や雑穀の栽培も行っていますが、まだまだ面積は限られています。

自然と近い分、鳥獣害の被害が多いという問題も見過ごせません。近年はイノシシが増加傾向にあり、サルは民家のすぐ近くまで降りてきています。畑の野菜、軒先の野菜が盗まれる被害も出ています。

弱みを強みに変える、という視点

地域再生システム論講座で結成された「中山間地域振興グループ」は、以上のように吉野谷地区を中心とする地域の現状をまとめ、土地や施設などはたくさんあるけれど、活用する手段や人材が不足しているという問題点を抽出

しました。そこでその解決策として、鳥獣害による作物被害や、増加する耕作放棄地などの「弱み」を「強み」に変えるという点に着目し、具体的な施策を検討しています。

■耕作放棄地を強みに変える！

転作作物の推進で白山ブランドの農産品・加工品を生み出し、地産地消のルートを確立、地場産業化を目指します。また耕作放棄地を観光事業への転用を図ります。

山菜

進行中！

現在、「木滑山菜園」で約0.4haの規模で県の補助事業として行っています。活動を支えているのは平均年齢70歳のメンバーです。収穫した山菜を地元の飲食店や旅館で使ってもらおうという構想で進めています。



市民農園

中期的目標

木滑地区、瀬波地区で取り組みがありますが、鳥獣害対策がカギになっています。

大豆

進行中！

大豆を栽培し、豆腐、味噌を作ります。白山は堅豆腐が有名ですが、現在100%地元産の大豆を使っているわけではないので、今後白山でとれた大豆を使った堅豆腐を開発してもらいたいとも考えています。

米

短期実現可能！

一部の地域で有機米、無農薬米などブランド米になりえるものを栽培しています。これを加工してどぶろく、地酒の復活も目指します。

観光牧場

中期的目標

体験学習の場として活用しながら、将来的には白山牛ブランドの確立をねらいます。

■休耕田&鳥獣害を強みに変える！

猪の捕獲・放牧

短期実現可能！

現在ネットや電気柵を試していますが、鳥獣による被害は減りません。そこで猪を捕獲して休耕田で放牧したり、これを食用にできないか検討しています。

■休耕田&空き家を強みに変える！

研修農地・研修施設

中期的目標

リタイア層、学生、小中学生を対象に、農業・炭焼き・伝統文化研修などを行います。

焼畑

中期的目標

焼畑は白山麓の伝統的な農法です。耕作放棄地を焼畑イベントで再生できないかと構想中です。

■自然を利用する！

谷川の利用

進行中！

整備された谷川を、グリーンツーリズムにおける子どもの遊び場として、また魚とり、石遊びなど伝統知の継承場所として活用します。

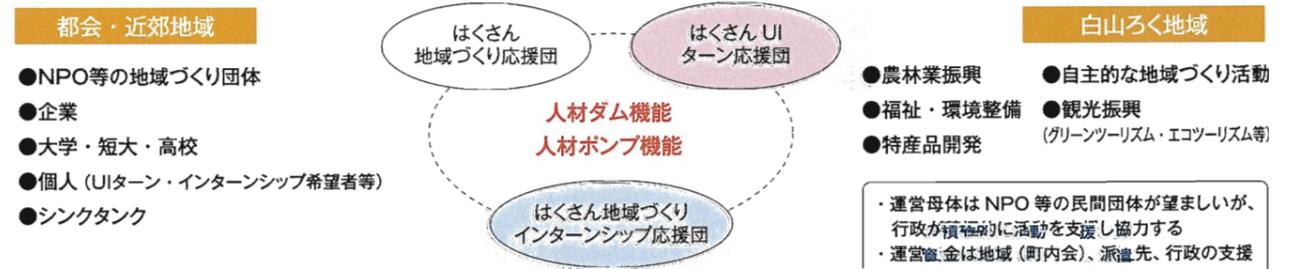
■空き家を強みに変える！

農家民宿・農家レストラン

数店舗営業中！

農家民宿や農家レストランの事業化支援を行います。

以上のような事業を進める上で欠かせないのが人材です。人材の育成するための仕組み作りとして、「はくさん地域づくり応援団」「はくさんUターン応援団」「はくさん地域づくりインターンシップ応援団」の3つの応援団の設置を構想しています。



さて、以上のようなアイデアを総合的に盛り込むと何ができるとお思いますか？ そう、「ぼたん鍋」です。

この事業案はぼたん鍋を囲むようなプロジェクト体系となっていることから、「白山ぼたん鍋プロジェクト」と名づけられています。地元で取れた米や野菜や山菜、それらを加工した味噌や豆腐、猪肉、そしてどぶろくにいたるまで、地産地消を極めた「ぼたん鍋」が本当にできたら面白いですね。

なお「白山ぼたん鍋プロジェクト」は、地域再生システム論最終日の成果報告で発表された後、平成21年2月に農林水産省・北陸農政局の「地域力発掘支援モデル事業」に採択されました。



botannabe PROJECT